

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	施策 主管課	文化財課	施策主管 課長名	平野克則
	施策No.	4	施策名	民俗芸能の伝承	施策の 目指す姿	民俗芸能への理解が深まり、伝承活動を活発に行っています	関係課名			
	現状と課題	・市内には、ユネスコ無形文化遺産に登録された早池峰神楽をはじめとして、数多くの民俗芸能が各地域に伝承されていますが、少子高齢化による後継者不足により、民俗芸能の伝承が困難な団体もあります。								

◎ 前年度の評価の振り返り

（前年度評価時の今後の方向性）

- ・花巻市郷土芸能保存協議会、花巻地方神楽協会や各地区芸術文化協会等の連絡体制を強化する。
- ・市内各郷土芸能団体の活動状況や後継者の有無、活動費用財源の状況、市教委に対する要望等を調査し、効果的な支援策を検討する。
- ・古民家活用事業として、神楽公演を年2回（主催1、貸会場1）行っている花巻市指定有形文化財「熊谷家」を活用し、事業の充実を図るとともに、より多様な活用策を検討する。
- ・民俗芸能公演会の集客を増やすため、市民へのPRに努める。

（反映状況）

- ・郷土芸能保存協議会、神楽協会、芸術文化協会の構成員（会員）は、重複が多く、普段から意思疎通が図られているため、改めて取り組む必要がなかった。
- ・市内郷土芸能団体の活動状況等やコミュニティ会議による支援の状況を調査し、団体が抱えている課題を把握した。その結果を、今後の活動の参考としてもらうため、芸能団体とコミュニティ会議へ報告した。市教委に対する要望は予算措置を伴う事項もあることから、今後の検討とした。
- ・古民家活用事業としての熊谷家の利用は、基礎改修と屋根葺き替え工事の期間がH30.1末までであったことから、主催事業の1回のみとなった。多様な活用策については、平成30年度も建物の改修を予定していることから、今後の検討とした。
- ・郷土芸能鑑賞会は、周知の時期を約1週間早めた。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 民俗芸能の伝承支援

- 民俗芸能の発表の場や伝承活動の場の確保
 - ・郷土芸能鑑賞会、青少年郷土芸能フェスティバル、古民家活用郷土芸能鑑賞会、みちのく神楽大会、大迫郷土文化保存伝習館公演の開催
- 民俗芸能団体の活動状況の調査と活動状況に応じた支援
 - ・郷土芸能団体に対する活動状況のアンケートを実施。神楽団体の用具購入にかかる補助金申請の支援
- 公演会情報等の市民へのPRの推進
 - ・市広報紙・HPへの掲載、文化施設、振興センター等へのポスター掲示とチラシ配置

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値	実績値				
郷土芸能団体数	地域ぐるみで伝承・保存に努めることが重要であることより、地域で実際に郷土芸能伝承や保存活動している状況を表す指数	花巻市郷土芸能保存協議会、花巻地方神楽協会、花巻市文化団体協議会の加盟団体より把握する。	団体	目標値	96	96	96	96	96	96
				実績値	96	96	96	96		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	<p>■ 成果指標「郷土芸能団体数」・・・【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存会を中心とした保存に対する地域の取り組みや、伝統芸能の継承者による努力によって目標を達成した。 ・市主催の郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバルが発表の場となり、あわせて、郷土芸能団体の交流の場ともなっており、それが伝承の意識付けにつながっている。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象 直結度	意図 直結度	
1-1	民俗芸能伝承支援事業	文化財課	一致	直結	B
	郷土芸能鑑賞会(8団体、650人)、青少年郷土芸能フェスティバル(9団体、800人)、古民家活用郷土芸能鑑賞会(3団体、250人)、大迫郷土文化保存伝習館公演(1団体、180人)の開催				
1-2	民俗芸能伝承支援事業	文化財課	一致	間接・補完	B
	民俗芸能団体の活動状況アンケート(調査票送付106団体、回答83団体)、コミュニティ会議へ支援のアンケート(27団体)				
1-3	民俗芸能伝承支援事業	文化財課	間接・少数	直結	B
	神楽団体の用具購入にかかる補助金申請の支援(1件)				

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)</p> <p>・なし</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)</p> <p>・これまで以上に、地域コミュニティ会議により、民俗芸能団体並びに伝承者を支援する必要がある。 ・伝承と後継者の確保のためには、動機づけと高いモチベーションを維持する必要がある。そのためには、民俗芸能の発表・鑑賞の場を設けること、後継者育成のための事業の充実を図る必要がある。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか)</p> <p>・なし</p>
--

6 施策の総合的な評価

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体の多くが、「後継者不足」、「構成員の高齢化」を課題としている。 用具(衣装、面、太鼓等)の修理、新調経費への助成希望が多いが、事業(予算)化にはいたっていない。 発表機会の拡大を求める声があることから、発表・鑑賞の場を増やすよう検討する必要がある。 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に伝わる伝統芸能を学校で鑑賞する機会をつくり、後継者づくりのきっかけとする。また、民俗芸能に興味を持っている人や、現在活動している人を対象として行っている、笛等の講習会のPRに努める。 用具等の活動に係る経費については、国や財団法人等が実施する用具の新調等に係る支援策を紹介すると共に、事業導入を支援する。また、コミュニティ会議にアンケート結果を紹介し、民俗芸能団体が求めている支援に理解をいただく。 発表機会の創出については、郷土芸能鑑賞会等、各種発表会への出演団体数の増加を検討する。
